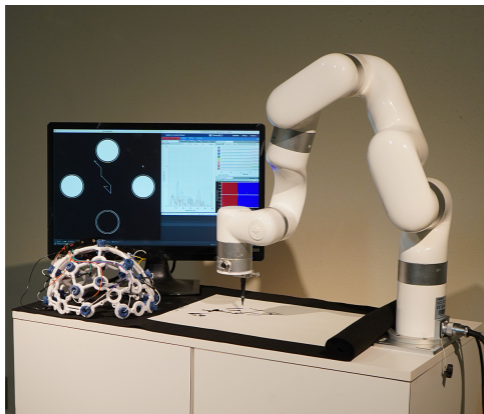




アイドリック脳科学研究所
芸術文化学部 技術院
コラボレーション



エスパードローイング

佐藤 弘隆

サイズ可変

脳波計・ロボットアーム
筆ペン・コンピュータ

本作は脳波によりロボットアームを操作し、ドローイングを描く試み。被験者は脳波計を装着し、モニターに映る4つの明滅する円のうちのどれかを注視する。円の明滅の周波数に連動して現れる大脳皮質視覚野の特徴的な電位（定常状態視覚誘発電位）を検出することで、それぞれの円の配置に対応した方向に、ロボットアームが筆を運ぶ。

本来、身体のようなフィードバックを受けながら表現される「描く」行為を、脳から直接信号を抽出することで実践している。無意識下に現れる意図しない信号も同時に拾われるため、思い通りのイメージを描き出すことは難しい。想定と結果がずれつつも時に一致し、意識と無意識が重なり合いながら線が生まれていく。